

応用的なコール処理

応用的なコール処理のタスクには、特別な機能が伴うため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に電話機の設定を依頼します。

短縮ダイヤル


短縮ダイヤルを使用すると、ホットキーを押したり、リストから選択したりしてコールを発信できます。電話機は設定に応じて、次のような短縮ダイヤル機能をサポートできます。


- [短縮ダイヤル ホットキー \(P.67\)](#)
- [回線表示短縮ダイヤル \(P.68\)](#)
- [固定短縮ダイヤル \(P.68\)](#)
- [ファーストダイヤル \(P.68\)](#)


短縮ダイヤル ホットキー

短縮ダイヤル ホットキーを使用すると、電話機にローカルに保存されている電話帳の連絡先番号にすばやくダイヤルすることができます。短縮ダイヤル ホットキーは、電話機から最大 99 個設定できます。コールを発信するには、短縮ダイヤル ホットキーを押し続けるか、[ディレクトリ] > [短縮ダイヤル] を選択します。


割り当てられている電話機の種類によって異なりますが、メイン電話帳画面には次の短縮ダイヤルアイコンが表示されます。

 勤務先電話

 自宅電話

 携帯電話


 他の電話

電話帳の連絡先詳細で、短縮ダイヤル ホットキーに割り当てられている電話番号の下に、短縮ダイヤルアイコン () が表示されます。

詳細については、[P.69 の「短縮ダイヤルとファーストダイヤルの使用方法」](#) および [P.109 の「電話機での電話帳の使用法」](#) を参照してください。

回線表示短縮ダイヤル

回線表示短縮ダイヤルを使用すると、ローカル電話帳に保存されていない電話番号にすばやくダイヤルすることができます。回線表示短縮ダイヤル番号は、ユーザ オプション **Web** ページから設定します。電話機には、最大 6 個の番号（回線番号および短縮ダイヤル番号の組み合わせ）を表示できます。

コールを発信するには、[回線表示] から短縮ダイヤル () を選択します。

詳細については、[P.69](#) の「[短縮ダイヤルとファーストダイヤルの使用方法](#)」および [P.122](#) の「[Web での短縮ダイヤルの設定](#)」を参照してください。

固定短縮ダイヤル

固定短縮ダイヤルを使用すると、固定短縮ダイヤル コードを使用して電話番号にダイヤルすることができます。固定短縮ダイヤルは、ユーザ オプション **Web** ページから設定します。

コールを発信するには、固定短縮ダイヤル コードを入力して、[短縮] ソフトキーを押します。

詳細については、[P.69](#) の「[短縮ダイヤルとファーストダイヤルの使用方法](#)」および [P.122](#) の「[Web での短縮ダイヤルの設定](#)」を参照してください。

ファーストダイヤル

ファーストダイヤルを使用すると、ファーストダイヤルリストからコールを発信できます。まずユーザ オプション **Web** ページからファーストダイヤル サービスに登録し、ファーストダイヤル コードを設定する必要があります。ファーストダイヤル コードは、**Web** 上の個人アドレス帳のエントリに割り当てることもできます。

コールを発信するには、[ファーストダイヤル] リストからファーストダイヤル サービス オプションを選択します。










詳細については、[P.69](#) の「[短縮ダイヤルとファーストダイヤルの使用方法](#)」、[P.122](#) の「[Web での短縮ダイヤルの設定](#)」、および [P.123](#) の「[Web でのパーソナルディレクトリの使用方法](#)」を参照してください。



(注) システム管理者がユーザの代わりに短縮ダイヤル機能を設定することもできます。

短縮ダイヤルとファーストダイヤルの使用方法

この機能を使用する前に、電話帳から短縮ダイヤル機能を設定する (P.109 の「電話機での電話帳の使用」を参照)、またはユーザ オプション Web ページで短縮ダイヤルを設定する (P.117 の「ユーザ オプション Web ページへのアクセス」を参照) 必要があります。

目的	必要な操作または状態の説明
短縮ダイヤルホットキーを使用して電話帳の連絡先に発信する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 短縮ダイヤルホットキーを [電話帳] で設定します。 2. 次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> – 短縮ダイヤルホットキーを約 2 秒間押し続けます。 <p> (注) 2 桁の番号をダイヤルする場合は、最初の 1 桁を入力してから、2 桁目の数字を約 2 秒間押し続けます。</p> <p>–  > [短縮ダイヤル] を選択し、短縮ダイヤルを強調表示してから、 を押します。</p>
短縮ダイヤル番号を使用して別の番号 (電話帳に保存されていない) にコールする	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザ オプション Web ページから短縮ダイヤル番号を設定します。 2. コールを発信するには、 を押します。 3. ラベルの付いた短縮ダイヤル番号へスクロールし、 を押します。 <p> (注) 回線表示には、電話番号と、その後に  で示される短縮ダイヤル番号が表示されます。6 つの項目 (回線と短縮ダイヤル) を表示できます。</p>
固定短縮ダイヤルを使用する	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザ オプション Web ページから固定短縮ダイヤルコードを設定します。 2. コールを発信するには、固定短縮ダイヤル機能コードを入力します。 3. [オプション] > [短縮] を選択します。
ファーストダイヤルを使用する	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザ オプション Web ページからファーストダイヤルサービスに登録し、ファーストダイヤルコードを設定します。P.117 の「ユーザ オプション Web ページへのアクセス」を参照してください。 2. コールを発信するには、使用する電話機で、 > [Fast Dial Service] を選択します (名前は異なる場合があります)。 3. リストをスクロールし、 を押します。


自分の電話機で他の電話機の着信に応答

コール ピックアップでは、同僚の電話機で呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトすることによって、そのコールに応答できます。コールピックアップは、同僚とコール処理を共有している場合に使用できます。

目的	必要な操作または状態の説明
自分のコール ピックアップ グループ内の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション] > [ピック] を選択します。 電話機が自動ピックアップをサポートする場合、すぐにコールに接続します。2. 自分の電話機でコールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。
自分のコール ピックアップ グループ外の別の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション] > [G ピック] を選択します。2. グループ ピックアップ番号を入力します。 電話機が自動ピックアップをサポートする場合、すぐにコールに接続します。3. コールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。
自分のグループまたは関連付けられたグループ内の別の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション] > [他 Grp] を選択します。 電話機が自動ピックアップをサポートする場合、すぐにコールに接続します。2. コールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。
特定の内線（回線番号）で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション] > [G ピック] を選択します。2. ピックアップするコールの回線番号を入力します。たとえば、ピックアップするコールが回線 12345 で鳴っている場合、12345 と入力します。 電話機が自動ピックアップをサポートする場合、すぐにコールに接続します。3. コールが鳴ったら、[応答] を押してコールに接続します。

ヒント





- ピックアップ対象のコールが複数ある場合、電話機は最も古いコール（呼び出し中の状態が最も長いコール）からピックアップします。
- **[G ピック]** ソフトキーを選択して回線番号を入力すると、電話機はその回線で呼び出し中のコールをピックアップします（回線が使用可能な場合）。

- 複数の回線があり、プライマリ回線以外の回線でコールに応答する場合は、まず （[回線表示]）を押してピックアップする回線に切り替え、それから **[オプション]** とコールピックアップのソフトキーを押します。
- ユーザの電話機の設定によっては、ピックアップグループへのコールに関する音声または表示（あるいはその両方）によるアラートを受信する場合があります。
- BLF ピックアップ機能を電話機で使用する場合は、[P.77 の「BLF の使用による回線状態の確認」](#)を参照してください。

パークされているコールの保存と取得

コールをパークすると、コールを保存し、Cisco Unified Communications Manager システムの別の電話機（同僚のデスクや会議室の電話機など）でコールを取得できます。次の方法を使用してコールをパークできます。

- コールパーク：[パーク] ソフトキーを使用してコールを保存します。コールが保存されるコールパーク番号が電話機に表示されます。この番号を記録し、コールを取得する場合もこの番号を使用する必要があります。
- ダイレクトコールパーク：[転送] ソフトキーを使用して、ダイヤルまたは短縮ダイヤルする使用可能なダイレクトコールパーク番号にコールを転送します。ダイレクトコールパーク番号からコールを取得するには、パーク取得プレフィクスをダイヤルしてから、同じダイレクトコールパーク番号にダイヤルまたは短縮ダイヤルする必要があります。短縮ダイヤルをダイレクトコールパーク番号として使用でき、ダイレクトコールパーク番号が使用中か使用可能かを監視できます。

目的	必要な操作または状態の説明
コールパークを使用してアクティブなコールを保存する	<ol style="list-style-type: none">1. コール中に [オプション] > [パーク] を押します。2. 電話スクリーンに表示されたコールのパーク番号を書き留めます。3.  を押します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク内の任意の Cisco Unified IP Phone でコールのパーク番号を入力し、コールに接続します。
アクティブなコールをダイレクトコールパーク番号に転送し、保存する	<ol style="list-style-type: none">1. コール中に [転送] を押します。2. パーク未使用アイコン  が表示された短縮ダイヤル番号を選択し、ダイレクトコールパーク番号に短縮ダイヤルします。パーク使用中アイコン  が表示された短縮ダイヤル番号は、ダイレクトコールパーク番号が使用できないことを示しています。 <p> (注) 短縮ダイヤル番号に BLF が設定されていない場合は、ダイレクトコールパーク番号が使用可能かどうかにかかわらず、このアイコンは表示されません。</p> <ol style="list-style-type: none">3. もう一度 [転送] を押して、コールの保存を終了します。
パークされたコールをダイレクトコールパーク番号から取得する	ネットワーク内の任意の Cisco Unified IP Phone からパーク取得プレフィクスを入力し、ダイレクトコールパーク番号にダイヤルします。

ヒント

パークされているコールを取得するまでの時間は制限されています。この時間を過ぎると元の番号に戻って呼出音が鳴ります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

ハント グループからのログアウト

大量の着信コールを受信する組織に属している場合、ハント グループのメンバーになっている可能性があります。ハント グループには、着信コールの負荷を共有する一連の電話番号が設定されています。ハント グループ内の最初の電話番号が使用中の場合は、次に使用可能な番号がグループ内で検索され、その電話機にコールが転送されます。電話機から離れているときは、ハント グループからログアウトすることによって、ハント グループのコールが自分の電話機で鳴らないようにできます。

目的	必要な操作または状態の説明
ハント グループからログアウトして一時的にハント グループのコールをブロックする	[オプション] > [ハント] を選択します。電話スクリーンに「ハントグループからログアウト」と表示されます。
ログインしてハント グループのコールを受信する	[オプション] > [ハント] を選択します。

ヒント

ハント グループからログアウトしても、ハント グループ以外のコールは引き続き着信します。



共有回線の使用

次の場合、システム管理者が共有回線の使用を指示することがあります。

- 複数の電話機で1つの電話番号を使う
- 同僚とコール処理タスクを共有する
- マネージャに代わってコールを処理する

共有回線について

リモートで使用中

「リモートで使用中」のメッセージおよび  アイコンは、回線を共有している他の電話機に接続されたコールがあり、プライバシー機能が無効になっている場合に、電話機に表示されます。「リモートで使用中」のメッセージまたは  アイコンが表示されていても、共有回線で通常どおりコールを発信したり、受信したりできます。

コール情報の共有と割り込み

共有回線の電話機には、共有回線で発信および受信したコールに関する情報がそれぞれ表示されます。この情報には、発信者 ID や通話時間などが含まれます(例外については、「[プライバシー](#)」の項を参照)。

コールに関する情報がこのように表示されているときは、**[割り込み]** または **[C 割込]** を使用して、回線を共有する同僚とともに、コールに参加することができます。[P.75 の「割り込みの使用による共有回線のコールへの参加」](#) を参照してください。

[割り込み]: 組み込みブリッジを有効にしている IP Phone との共有回線のコールに参加できます。

[C 割込]: 任意の IP Phone との共有回線のコールに参加し、コールを会議に切り替えることができます。

プライバシー

無線 IP Phone では、プライバシー機能がデフォルトで有効になっています。回線を共有している同僚は、コールの情報を参照できません。回線を共有している同僚の画面に情報を表示するには、ユーザの電話機でプライバシー機能を設定する必要があります。[P.76 の「他者による共有回線のコールの表示および参加の防止」](#) を参照してください。



(注) 電話機は、1本の共有回線で最大24件のコールをサポートできます。

割り込みの使用による共有回線のコールへの参加

割り込み機能（[C 割込] または [割り込み]）を使用して、共有回線のコールに自分自身を追加できます（プライベート コール以外のコールである必要があります）。P.74 の「共有回線について」を参照してください。

割り込み機能について



C 割り込みと割り込み

電話機の設定によっては、[C 割込] または [割り込み] を使用して、共有回線のプライベート以外のコールに自分自身を追加できます。

- [C 割込] を使用すると、コールを標準の会議に切り替え、新しい参加者を追加できます（標準の会議の詳細については、P.60 の「会議コールの使用法」を参照してください）。
- [割り込み] を使用すると、コールに自分自身を追加することはできますが、コールを会議に切り替えることや、新しい参加者を追加することはできません。

割り込み機能の使用法

次の表に、割り込み機能（[C 割込] または [割り込み]）を使用して共有回線のコールに参加する方法を示します。



目的	必要な操作または状態の説明
共有回線が使用中であることを確認する	 アイコンおよび「リモートで使用中」のメッセージが表示されているかどうかを確認します。
共有回線のコールに参加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. リモートで使用中のコールを強調表示します。場合によっては、回線表示を使用する必要があります。 2. [オプション] > [割り込み] または [C 割込] を選択します。
会議の参加者を表示する	P.64 の「会議参加者の表示または削除」を参照してください。
割り込んだコールから離脱する	<p>[終了] または  を選択します。</p> <p>割り込み機能を使用した後、コールを切断すると、他の参加者に切断音が聞こえ、元のコールは続行します。</p> <p>C 割り込み機能を使用した後、コールを切断すると、3 名以上の参加者が回線に残っている場合に限り、そのコールは会議コールとして続行します。</p>

ヒント

- コールに割り込むと、他の参加者に対して自分の存在を知らせるビープ音が鳴ります。[C 割込]を使用した場合は、他の参加者に短い割り込み音が聞こえ、電話スクリーンが切り替わって会議の詳細が表示されます。
- 共有回線の電話機でプライバシー機能が有効な場合、コールの情報や割り込みのソフトキーは、回線を共有する別の電話機には表示されません。
- [割込み]を使用して参加したコールが保留状態になるか、転送されるか、または会議コールに切り替えられた場合は、そのコールから切断されます。

他者による共有回線のコールの表示および参加の防止

電話回線を共有する場合、プライバシー機能を使用し、回線を共有している他者が自分のコールを表示したり自分のコールに割り込んだりする（コールに参加する）のを防止することができます。











目的	必要な操作または状態の説明
他者が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを防止する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション] > [非通知] を選択します。2. プライバシー機能が有効であることを確認するには、電話番号の横に  (プライバシー機能有効アイコン) が表示されていることを確認します。
他者が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを許可する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション] > [非通知] を選択します。2. プライバシー機能が無効であることを確認するには、電話番号の横に  (プライバシー機能無効アイコン) が表示されていることを確認します。



ヒント

- 回線を共有している電話機でプライバシー機能が有効になっている場合、共有回線を通常どおり使用して、コールの発信や受信ができます。
- プライバシー機能は、使用している電話機のすべての共有回線に適用されます。したがって、複数の共有回線でプライバシー機能を有効にすると、自分が共有している回線すべてにおいて、同僚がコールを表示したりコールに割り込んだりすることを防止できます。

BLF の使用による回線状態の確認

Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) 機能を使用すると、電話機の短縮ダイヤル、履歴、またはディレクトリ リストに関連付けられた電話回線の状態を確認することができます。BLF ピックアップを使用すると、監視対象の回線で呼び出し中のコールに応答できます。どの BLF 機能を電話機に設定するかは、システム管理者が決定します。

目的	必要な操作または状態の説明
履歴またはディレクトリに表示されている回線の状態を確認する	<p>回線番号の横にあるインジケータを確認します。次のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="508 532 557 576"> 回線は使用中です。 <li data-bbox="508 587 575 633"> 回線はアイドルの状態です。 <li data-bbox="508 644 557 690"> 回線はサイレント状態です。 <li data-bbox="508 701 628 738"> 回線は呼び出し中の状態です。 <li data-bbox="508 750 557 795"> この回線では、BLF インジケータは使用できません。
短縮ダイヤル回線に表示されている回線の状態を確認する	<p>回線番号の横にあるインジケータを確認します。次のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="508 914 557 958"> 回線は使用中です。 <li data-bbox="508 969 575 1015"> 回線はアイドルの状態です。 <li data-bbox="508 1026 557 1071"> 回線はサイレント状態です。 <li data-bbox="508 1083 628 1128"> 回線は呼び出し中の状態です (BLF ピックアップのみ)。 <li data-bbox="508 1140 557 1185"> この回線では、BLF インジケータは使用できません。

目的	必要な操作または状態の説明
<p>BLF ピックアップを使用して、同僚の電話機で呼び出し中のコールに応答する</p>	<p>呼び出し中の回線を強調表示して、（[選択] ボタン）を押します。</p> <p>コールは使用している電話機にリダイレクトされます。電話機が自動ピックアップをサポートしている場合、自動的にコールが接続されます。サポートしていない場合、ユーザが自分でコールに応答するようにユーザ自身の電話機が鳴ります。</p> <hr/> <p> (注) 監視対象の回線が呼び出し中でないときに、[オプション] > [ピック] または [G ピック] を選択すると、電話機はその回線番号に短縮ダイヤルします。</p>

ヒント



- 監視対象の回線に呼び出し中のコールがあるときに、電話機がオーディオ インジケータを再生して通知できる場合があります（BLF ピックアップのみ）。
- BLF ピックアップは、呼び出し中のコールの中で最も古いコールから応答します（監視対象の回線に呼び出し中のコールが複数ある場合）。

安全なコールの送受信

システム管理者が電話機システムをどのように設定したかによって異なりますが、電話機では安全なコールの送受信がサポートされます。

電話機では、次の種類のコールがサポートされています。

- **認証されたコール**：コールに参加しているすべての電話機の ID が検証されています。
- **暗号化されたコール**：電話機は、Cisco IP ネットワーク内で暗号化されたオーディオ（会話）を送受信しています。暗号化済みのコールは認証済みのコールでもあります。
- **保護されたコール**：電話機は、暗号化されたオーディオ（会話）を別の電話機との間で送受信しています。保護されたコールは、暗号化されたコールと同等のセキュリティを確保できるだけでなく、より高度なセキュリティも実現します。コールが両端で保護されている場合、会話の最初にセキュリティ トーンが再生されます。保護されたコールが設定された場合、会議コール、共有回線、エクステンション モビリティ、および回線をまたいで参加など一部の機能が使用できません。保護されたコールは認証を受けていません。
- **ノンセキュア コール**：参加している電話機または接続の少なくとも 1 つでセキュリティ機能がサポートされていないか、電話機が検証できません。

目的	必要な操作または状態の説明
コールのセキュリティ レベルを確認する	コール アクティビティ 領域の右上、通話時間タイマーの横にあるセキュリティ アイコンが、次のいずれかの状態になっていることを確認します。  認証されたコールまたは会議  暗号化されたコールまたは会議 コールがノンセキュアの場合は、いずれのセキュリティ アイコンも表示されません。
接続の相手側の電話機も安全であることを確認する	暗号化を示す鍵のマークのアイコンが表示されていること、およびコールの最初にセキュリティ トーンが聞こえることを確認します。 電話機に暗号化されたコールが設定されると、鍵のマークのアイコンが表示されます。ただし、会話が保護されるのは、セキュリティ トーンがコールの最初に再生される場合だけです。セキュリティ トーンの再生は、コールの両端が保護されていることを示します。保護されていない電話機に接続するコールでは、セキュリティ トーンは再生されません。
社内で安全なコールを発信できるかどうかを判断する	システム管理者にお問い合わせください。



(注) 相互作用や制約、制限によって、電話機におけるセキュリティ機能の動作が悪影響を受ける場合があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

不審なコールのトレース

不審（迷惑）なコールを受信している場合、システム管理者は電話機に **Malicious Call Identification (MCID; 迷惑呼 ID)** 機能を追加できます。この機能を使用すると、アクティブなコールを不審なコールとして識別できます。その結果、一連のトラッキングと通知のメッセージが自動的に発信されます。





目的	必要な操作または状態の説明
システム管理者に不審なコールまたは嫌がらせのコールの受信を通知する	[オプション] > [迷惑呼] を選択します。 電話機でトーンが再生され、電話機に「迷惑呼が成功しました」というメッセージが表示されます。

重要なコールの優先順位付け

官庁のような特別な環境では、緊急または重要なコールを発信および受信しなければならない場合があります。この特別なコール処理が必要な場合は、電話機への Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) の追加をシステム管理者に依頼します。

次の用語に留意してください。

- *Precedence* : コールに関連付けられたプライオリティを示します。
- *Preemption* : プライオリティの低い既存のコールを終了して、電話機に送信されたプライオリティのより高いコールを受け入れる処理です。



目的または状態	必要な操作または状態の説明
発信コールのプライオリティレベル (Precedence) を選択する	対応するコールの Precedence 番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください。
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。
特別な呼出音 (通常より速い) または特別なコール待機音が鳴る	プライオリティ (Precedence) コールを受けていることを意味します。コールのプライオリティレベルは、電話スクリーン上の MLPP アイコンによって示されます。
コールのプライオリティレベルを確認する	電話スクリーン上の MLPP アイコンを確認します。  プライオリティ コール  中程度のプライオリティの (即時) コール  プライオリティの高い (フラッシュ) コール  プライオリティの最も高い (フラッシュ オーバーライド) コール、つまりエグゼクティブ オーバーライド コール より高いプライオリティのコールが、コールリストの先頭に表示されます。MLPP アイコンが表示されていない場合、コールのプライオリティレベルは通常 (ルーチン) です。
プライオリティのより高いコールを受け入れる	コールに通常どおり応答します。必要に応じて、アクティブなコールを先に終了します。
コール中に連続したトーンが聞こえる	自分または通話相手が、現在のコールより優先されるべきコールを受信しています。すぐに切断し、プライオリティのより高いコールの呼出音が鳴るようにします。

ヒント

- MLPP が有効なコールを発信または受信すると、標準のトーンとは異なる特別な呼出トーンとコール待機音が鳴ります。
- 無効な MLPP アクセス番号を入力すると、音声によるアナウンスでエラーが通知されます。
- 次の場合には、MLPP が有効なコールのプライオリティと優先ステータスがそのまま維持されます。
 - コールを保留にする
 - コールを転送する
 - コールを 3 者会議に追加する
 - [ピック] を使用してコールに応答する
- MLPP を使用すると、サイレント機能が無効になります。

Cisco エクステンション モビリティの使用法


Cisco エクステンション モビリティ (EM) を使用すると、Cisco Unified IP Phone を一時的に自分の電話機として設定できます。EM にログインすると、電話機が、電話回線、機能、設定されたサービス、および Web ベースの設定といったユーザ プロファイルを選択します。システム管理者は、EM を設定する必要があります。

目的	必要な操作または状態の説明
EM にログインする	<ol style="list-style-type: none"> 1. ◀  >[EM Service]を選択します(名前は異なる場合があります)。 2. ユーザ ID および PIN (システム管理者より提供されたもの) を入力します。 3. 指示がある場合、デバイス プロファイルを選択します。
EM からログアウトする	<ol style="list-style-type: none"> 1. ◀  >[EM Service]を選択します(名前は異なる場合があります)。 2. ログアウトの指示があったら、[Yes] を押します。

ヒント

- 一定の時間が過ぎると、EM によって自動的にログアウトされます。この時間制限は、システム管理者によって設定されます。
- ユーザ オプション Web ページから EM プロファイルに対して行った変更は、次回、電話機の EM にログインしたときに有効になります。
- 電話機だけで制御されている設定は、EM プロファイルには保存されません。

アプリケーション ボタンの使用方法

アプリケーション ボタン  (電話機の左側) を使用すると、電話機で Push to Talk などのアプリケーションや他のサービスを開始できます。


システム管理者がアプリケーション ボタンをどのように設定するかによって、メイン画面から使用したり、メニューまたはサービスから使用したり、電話機がロックされているときでも使用したりすることができます。

アプリケーション ボタンは、ボタンを押してすぐにアプリケーションを開始したり、数秒待機した後で開始したりするように設定できます。

詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

Push to Talk サービスの使用方法

Push to Talk サービスを使用すると、組織のメンバーとすぐに連絡をとることができます (双方向ラジオと類似)。システム管理者は XML アプリケーションを使用して Push to Talk サービスを設定し、ユーザはこのサービスに登録する必要があります。

目的	必要な操作または状態の説明
Push to Talk サービスにアクセスする	<p>Cisco Unified CallManager 4.1 以降を使用しているシステムの場合は、P.119 の「IP Phone サービスへの登録」を参照してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降を使用しているシステムの場合は、P.125 の「Web での電話機サービスの設定」を参照してください。</p>
Push to Talk サービスを使用する	<ol style="list-style-type: none"> [Push to Talk] を選択します (名前は異なる場合があります)。 アイコンが表示されれば、Push to Talk サービスはアクティブになっています。サービスの設定内容によって異なりますが、 ボタンを使用して送信を開始したり終了したりします。[Talk] ソフトキーと [停止] ソフトキーを使用して送信と受信を切り替えることもできます。 <p> (注) Push to Talk サービスの使用方法の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。</p>